

【検討にあたっての基本的な考え方】

遠山郷学園小学校再編に向けた取組の中で、通学環境が変化する令和８・９年度の通学方法等については、以下の点に沿って検討を進める。

- (1) 児童生徒の通学環境に大きな影響がないよう配慮する。通学方法の変更がある児童生徒に対しては、可能な限り負担軽減の方策を検討する。
- (2) 児童生徒と保護者、地域にとって、安心でき、安全な通学方法の確保に努める。
- (3) 車両等の限りある資源を有効活用して持続可能な通学環境を構築する。
- (4) 再編以降の通学方法においては、その時々児童生徒の状況に応じて、保護者等関係者と検討して定める。



【基本乗降場所】南信濃地域交流センター ●：メリット ▲：デメリット

- 平時には、待機場所があり、大人の目が行き届く等の安全性が高い。また、放課後子ども見守り事業(学習交流センター)への移動がしやすい。
- これまでの通学距離とほぼ変更がない(遠い児童でも1.3km程度)。
- ▲ 和田保育園側の歩道からセンター側へ渡る横断歩道が近くに無い。
- ▲ 災害時には待機場所が取れず、見守りできる体制が整わない。

【災害対応時の乗降場所】 遠山中学校 ●：メリット ▲：デメリット

- 安全な乗降スペースが十分にあり、小中学生の乗降場所が一つとなるため児童生徒やバス運転手もわかりやすい。
- 災害時には待機場所があり、引き渡し等、小中学校職員が連携して対応が可能となる。
- ▲多くの児童が現在より300m程度通学距離が伸びる。
- ▲中学校が計画休業の場合に緊急時の教職員の対応ができない。